

す な お

令和6年11月号

発行所 天理教瀬戸路分教会

〒794-0007 今治市近見町4-5-10

URL <https://www.tenrikyo-setoji.net/>

☎ 0898-23-5004 責任者 二宮 英治

発行日 2024.11.16 通巻 No.772



会 長

今月の3日に今治支部において「ようぼく一斉活動日」が開催されました。私は毎回、会場に来る少年会員に対しても同じように心を成長させるチャンスと思って、支部の少年会担当の先生と共に神様の思いを伝える企画を考えています。前回までは以前のこどもおちばがえりのやかた講話で使ったDVDを映して、その後のクイズに出題したりしていましたが、もう使えそうなDVDが無いので今回は私がお話をさせていただくことにしました。

内容は「ひのきしん」です。誰もがよく知る教理の一つですし、子供たちもさまざまな形や場所に参加してくれているので対話形式で進めました。まずは「ひのきしん」と「ボランティア」との違いです。皆さんは分かりますか？案外と分かっているようで違いと言われるとなかなか即答出来ないものです。

災害が起きた後に「ボランティア」も駆けつけますし「災害救援ひのきしん隊」も駆けつけます。現地での作業に差はありません。時給もないし、一緒です。その違いは【親神様によって生き生かされている喜びを胸にその御恩をお返ししたい】と思って行動しているか否かということです。「ボランティア」の方々は天理教の信仰をされている訳ではないので、このことは知りませんから「ひのきしん」にはなりません。もちろん、「ボランティア」を否定している訳ではありません。真実の働きです。

そして「ひのきしん」というと「草抜きをする」「海岸清掃をする」「回廊を拭く」という形が決して「ひのきしん」ではないということです。つついその形に囚われて思い込んでしまっていることはないでしょうか？このことを少年会員のみなさんに話をしながら（これは子供だけの話ではなく大人のみなさんにも伝えなければ）と思いました。

広い悟りを言えばどんなことをしていても、心に親神様への報恩感謝の思いで行動するなら、その全てが「ひのきしん」になるということだと思えます。

「『かしもの・かりもの理』が分からなければ信仰のほとんどが分からないのと同じ」と聞かせていただきます。今、一度そこへ立ち帰り通らせていただきましょう。



かしものかりもの

二宮 真悟

今年の5月ごろから造園の仕事で開業しまして、ようやく半年経つかな、というところまで来させて貰いました。少しずつではありますがいろんな方々からお声掛けを（次ページへ）

頂いて、今では毎日忙しく勤めております。本当に有難いことです。

仕事が軌道に乗ってきた矢先、先日11日、愛媛に帰る2日ほど前に、外出先で看板に頭をぶつけて頭を三針縫う怪我をしてしまいました。縫ったものの大事には至らず、大難を小難に頂きました。

今は仕事は勿論、大教会や瀬戸路ではバンド活動も忙しくなり、不休で体を酷使していました。いける！いける！と心も体も高飛車になっていたように思います。神様は体はかりものだと仰せくださいます。職人仕事は身体が資本です。

頭を三針縫っただけでも頭痛で仕事に身がはいりません、今一度「かしの・かりものの教え」を心に収め直して、感謝の気持ちを忘れずに仕事に励みたいと思います。

《教会ニュース》

修養課一期講師

会長が来年の4月から6月までの3ヶ月、修養科一期講師をつとめることとなりました。3月19日より教会を出発してそのまま御用に入ります。どうか、留守中勇んで変わりなくおつとめ下さい。よろしくお願いします。

教会忘年会

来月1日、午前9時半より開催します。主な内容はおつとめ練習、ビンゴゲーム、カラオケ大会、そしてみんなで昼食作りとなっています。詳細は田中道則くんへお尋ねください。また、参加希望の方は田中道則くん、中川真理さんへ今月20日までに連絡をお願いします。



編集後記



今年の秋は、例年以上に短く感じられました。紅葉が進み、風が冷たくなる中で、季節の移ろいの速さに驚かされます。そんな中、我が子は大学受験に向けて一段と勉学に励んでおり、その姿を見守る親としての喜びと心配が交錯します。秋の深まりとともに、今年もまたあっという間に残り少なくなってしまうしました。

振り返ると、家族と過ごした日々や忙しい仕事の合間に楽しんだひとときが思い出されます。今年は多くの出来事があり、時には悩み、時には喜びを感じながら過ごしてきました。その中で、私自身も成長できたことを実感しています。

そんな中、私にとって大きな楽しみであり挑戦でもあるバンド演奏が控えています。仲間たちと共に音楽を奏でる時間は、日常のストレスを忘れさせてくれる貴重なひとときです。ステージに立ち、観客の前で演奏するのは緊張もしますが、それ以上に得られる達成感は格別です。だからこそ、今は全力で練習に励み、最高のパフォーマンスを目指して頑張りたいと思います。

(編集者K)